

「草の根」から丹精する「緑」



▲「夢の会」の名前入りのエプロン姿で作業に当たる安部さん（江南市内で）

木 曾川の恵みを受ける愛知県江南市。のどかな田園風景が広がる地の一角に、古くからの住宅が立ち並ぶ前飛保町はある。

公民館や商店、家々の軒先など至る所に、赤、青、黄の3色のパンジーを植えたプランターが置かれているのが目に入る。

花々の手入れをしているのは安部政徳（68歳・愛葉分教会長）。町内を花で彩る「前飛保町夢の会」代表を務めている。

「花を見て怒る人はいない。この花を見た人の心を、少しでも癒やせたら」

会設立の契機となったのは平成6年の愛知国体。地域ぐるみで選手団を迎える中心的な役割を担った安部は、民泊や食事などの世話に加え、選手らに気持ち良く過ごしてもらおうと、通りを花々で彩る活動を繰り返した。

会活動を通して一体となる地域の姿を見て「これで終わりにするのはもったいない」と、緑化活動の継続を呼びかけた。

現在、会員75人。町内約800個のプランターを管理し、各地区の担当者が水やりや花殻摘み、除草などの手入れをする。春と秋の年2回は、教会前の敷地にプランターを並べて、全員で花の植え替え作業に当たる。

会員からは、こんな声が聞かれる。定年退職後、花の手入れを通して生活に張りが出てきた。会活動のおかげで、ご近所と交流ができた。毎朝の水やりが楽しみで――。

「もともと『皆さんが喜んでくださるなら』との思いで始めたけれど、いまでは、花々の美しさと、ひのきしん活動を通して生まれた人と人とのつながりが、地域に住まう一人ひとりの心を安らかにしてくれているように感じる」

なかには、会活動をきっかけに教えを知り、おちば帰りをする人も少なくない。

最近では、近隣地域の代表者が活動に参加し、花の育て方や会の運営システムを学んで地元拠点に設けるなど、花いっぱい、の取り組みは町外にも広がっている。

先日、会の集まりでこんな声をかけられた。

「安部さんがやっている間はやめられないね！」

「教会は地域のお役に立ってこそ。親神様・教祖にお与えいただいた御用の一つとと思っているので、何も特別なことをしているつもりはない。これからも、体の動く限りは続けさせてもらいたい」